

アルミの
はなし

アルミエージ

Japan
Aluminium
Association

2011. Summer

No. 174

千年の歴史と
アルミの技わざが出会う

アルミ
+

寺

[特集] 古刹・壬生寺
京都の美しい
景観を守る

[アルミ進化論]
イージーオープンエンド編
飲料缶の開栓技術をたどる

グッド・アルミ・デザイン
数字で見るアルミ

歴史とアルミが融合する古刹・壬生寺

京都の美しい 景観を守る



寺号標柱もアルミ!

千年の歴史を超える神社仏閣が集まる京都。悠久の時を刻む古刹のひとつが、壬生寺です。かたや、1807年に金属として発見され、さまざまな分野で活躍するアルミニウム。「伝統」と「革新」、この相反する2つが融合して、壬生寺は古都ならではの景観を創造しています。1万3千㎡以上にもおよぶ境内の随所で、多彩に活用されているアルミニウムを探索します。

壬生寺創建の歴史

平安時代中期の正暦2年(991)に創建。三井寺の快賢僧都が、仏師定朝に地藏菩薩像を彫らせて本尊にした。宗派は南都六宗のひとつである律宗。鎌倉時代に平政平により再興され、円覚上人が庶民に仏の教えを伝えるために大念佛会を広めたことにより隆盛した。それが、壬生大念佛狂言に発展したといわれている。幕末には新選組の本拠が壬生寺の傍にある八木家に置かれ、京都奉行所の斡旋もあって境内を兵法訓練場を使用。隊士たちが壬生大念佛狂言鑑賞や相撲興行を催したという逸話も残る。現在では、隊士11名を祀る壬生塚があることから“新選組ゆかりの寺”として知られている。本堂は1962年に焼失し、1970年に再建。また、1991年には創建千年を迎え、記念式典が盛大に開催された。



写真中央が焼失前の壬生寺・本堂



目を凝らせば、ここにも、あそこにも……。

壬生寺の境内を歩くと、意外な場所でアルミニウム製品が発見できます。門前から本堂、阿弥陀堂、狂言堂へ、壬生寺貫主の松浦俊海さんにお話を伺いながら、活用例を紹介します。

門前

参拝者や観光客の目印となる 五色に光る寺号標柱



文字の裏側に埋め込んだ光ファイバーが点灯し、10秒ごとに5色に変わる



上部の飾り以外は、アルミニウムの無垢材を使用している車止めのポール

表門の前に立つと、まず目を引くのが威風堂々とそびえる寺号標柱。重厚な石造りに見えますが、じつはアルミ製の鋳物です。

大寺院の多い京都の中で存在感を高めたいというのが、製作意図だと松浦貫主は言います。夜にな

れば、寺号の文字の色が青、黄、赤、白、黒（無灯）の順に光り、道行く人を幽玄の世界へ誘います。この5色は、仏教で如来の精神や智

慧を表す色とのこと。

「標柱の製作で配慮したのは、金属特有の色合いで京都の伝統的な景観を損なわないようにすることでした。石柱を模した質感と落ち着いた色味に仕上げています」と、松浦貫主。

また、車止めのポールもアルミ製です。表門の景観に自然に溶け込むように、塗装を濃い茶色にして、より重厚感が出るように細部まで工夫されています。

アルミの特性 加工性

塑性をいかして細かな質感に加工

塑性とは、ある限界以上の力を加えて変形させた時、力を除いても永久変形を生じる性質のことです。アルミニウムは、この性質をいかした加工性に優れた金属。また、鋳造性も良く、表面に精密な細工をした鋳物にできるのもアルミニウムならではのこと。文字の部分は、石柱を模した本体とは異なり、梨地仕上げで細かなざらつきのある質感に仕上げられています。



本堂

軽さを求めた灯籠と天井絵が 本堂を絢爛豪華に彩る

本堂には、壬生寺の本尊であり重要文化財でもある延命地藏菩薩立像が安置されています。

京都の夏の風物詩といわれるのが、8月の旧盆に本堂で催される万灯供養会です。本堂の前面に、先祖供養の灯籠が約1100個も組み上げられ、幻想的に煌めきま

す。この灯籠の枠組みはアルミ押出形材を使用。中にLED電球が取り付けられています。

数を組むと相当な重量となり、木枠に歪みが生じていたそうです。

アルミ製灯籠の導入で 修理や手入れの負担が軽減

アルミ製の灯籠にしたのは、約20年前のこと。仏縁がきっかけで知り合ったアルミニウム加工業者の方の薦めもあり、また、軽さと火災の危険性も少ないということからアルミ製に決めたそうです。

実際に使用してみると、木製よりも軽量なため、組み上げがしや



20cm四方のアルミ製枠組みの灯籠。これが幾段にも組み上げられて、本堂前に灯される



律宗・壬生寺 貫主
松浦俊海さん

(まつうらしゅんかい)

1934年、京都府生まれ。龍谷大学文学部仏教学科卒業。ビルマ（現・ミャンマー）ダムドッター・カレッジ修了。1969年、壬生寺貫主および壬生寺大念佛講長に就任。2005年より5年間、律宗管長、唐招提寺第85世長老を兼務した。

「多くの施設を抱える当寺では、改修時期だけでなく、毎年の修理にもかなりの費用がかかります。しかし、アルミニウムはメンテナンスフリーといわれているように、壊れにくく手入れも楽です」

もともと機械や金属に造詣が深く、研究熱心な松浦貫主。柔軟な発想が、アルミニウムを効果的に活用する原点になったようです。



220枚の天井絵が、
荘厳な空間を演出する

静謐な本堂に入り、天井を見上げると、壬生寺裂と呼ばれる、向かい鳳凰の紋という図柄の天井絵が、荘厳な空間をつくり出しています。

筆で1枚ずつ精細に描かれたかのように見える天井絵。しかし、これらすべてがアルミ製です。

創建千年の記念事業のひとつとして本堂の改修を行った際に、この天井絵に張り替えました。改修を容易にしたのは、アルミニウムの軽量さと発色の良さ。1枚75cm角、厚さ1・5mmのアルミニウムの板に、文様を6色でスクリーン印刷。全部で220枚をはめ込んでいます。これだけの枚数があっても、総重量は500kg程度。建物への負担は、かなり軽減できています。

さらに、なによりも際立つのは色の美しさ。発色が良く、鮮明に描けるアルミ板の特性が、本堂の演出効果をより高めています。



阿弥陀堂

色褪せない垂木鼻の錆が 木肌と調和したデザインを生む

阿弥陀三尊といわれる阿弥陀如来、観世音菩薩、勢至菩薩の像が鎮座する阿弥陀堂。伝統的な寺院建築様式の中に、最新の建築技術を取り入れられています。特に軒先の垂木鼻（垂木の先端）は、丸瓦との取り合わせが、はんなりとした温かさを醸し出しています。

この垂木鼻の錆部分はアルミ板材を使用。一般的には、銅製のメッキ処理を施した錆が使われます。しかし、時とともに腐食が進み、さらに、近年多い酸性雨にさらされて穴が開いてしまうケースも多いそうです。

そのため、壬生寺ではいつまでも変わらぬ美しさを持続させるように、耐食性に優れたアルミニウムを採用しました。筒状に一体化した伝統的なデザインの錆が、垂木と融合して、木造建築美をいっそう引き立てています。



阿弥陀堂の授与所にある土産品の近藤勇人形（左）と地藏人形（右）。手のひらサイズながら、アルミニウムの無垢材で、重厚感がある



（上）唐招提寺・礼堂軒先の建築様式を模した垂木。細かな装飾を施したアルミ製の錆が、木の質感と馴染んでいる（下）阿弥陀堂には、お守りや土産品を置く授与所が併設。周りには一夜天天堂や弁天堂、水掛地藏堂、裏手には新選組隊士の墓所である壬生塚がある



1 本堂内部を艶やかに飾る天井絵に加え、木製の仕切りの上に輝く金色の装飾部分もアルミ製で、腐食しにくい 2 1991年に改修された本堂。地元の人や観光客など、参拝者が絶えない 3 天井絵の図柄は、壬生大念佛狂言の衣装に使用されていた壬生寺裂のひとつ。鳳凰の紋様は、平安時代から貴族の着物を雅やかに彩っていたという



アルミの特性
耐食性



腐食を防止する

アルミニウムは、空気中で安定した酸化皮膜を生成し、腐食を自然に防止。さらに皮膜形成を促進させる陽極酸化処理を施すと、耐食性が高まります。垂木鼻の錆をアルミ製にすることで、美しさが持続します。

壬生寺で活躍するアルミニウム

門前・掲示板

表門と調和した景観を演出

どこの寺院でも見かける掲示板でも、壬生寺では耐食性に優れたアルミ製です。風格のある表門の屋根の形状に合わせて、掲示板の屋根をデザイン。調和のとれた景観をつくっています。



千体仏塔・装飾

輝きを失わない完全球形

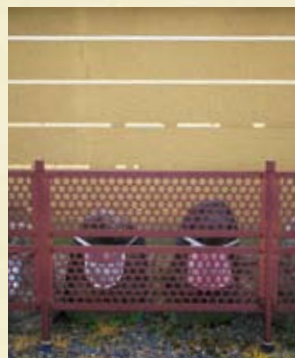
ミャンマーのパゴダに似た円錐形の千体仏塔に合うように考案した、門柱上部の装飾。耐食性の高いアルミ製の鋳物です。球形の成型は難易度が高く試行錯誤を重ねて完成。真円の形状と輝きに魅了されます。



水掛地藏堂・額

水にも強く立体的な文字

2010年、円覚上人700年御遠忌を記念して水掛地藏堂が改修された時に製作した額は、耐食性のあるアルミ製。額の枠まで一体成型した鋳物で、浮き上がるように輝く文字が印象的です。額字は松浦貫主筆。



狂言堂・土塀防護柵

崩れやすい土塀をガード

重要文化財である狂言堂の土塀を守る防護柵に、リサイクル材のアルミメガネシートが使用されています。腐食しにくく堅牢なため、保護板や側溝敷板など、壬生寺のさまざまな場所でも有効利用されています。



本堂・散華

美しい光と音を放つ蓮の花

法要時など、諸仏を供養するためにまかれる散華は紙製ですが、壬生寺ではアルミ箔製もあります。蓮の花弁の形に裁断し、金色に文字を印刷し、裏は銀色。輝きと同時にシャリシャリと音を立てて舞い落ちます。



寺務所・結界

聖域の目印も片手で移動

神聖なる領域と俗なる領域を分ける結界。寺務所前に置かれています。木や竹でつくられるのが一般的ですが、壬生寺では耐食性の高いアルミ製。角柱の中が空洞なため見た目よりも軽く、移動する時も容易です。



仏教を群衆にわかりやすく説くための無言劇が壬生大念佛狂言の始まり。現在、壬生大念佛講によって受け継がれている

狂言堂

壬生大念佛狂言の鑑賞用に採用されたアルミ製観覧席



1 狂言堂の舞台正面に設置された観覧席。前方が長椅子席、後方がひな壇席。合わせて400人収容可能 2 長椅子の座面と背もたれには、アルミ板からできるリサイクル材のメガネシートを使用。雨に濡れても乾きやすいと好評 3 簡単に組み立てられる長椅子の背もたれ部分は、松浦貫主のアイデアにより試作を重ねて完成したもの 4 ひな壇席のアルミ合金軽量パイプの接合には、圧着方式を採用。荷重や振動、衝撃に優れた性能を発揮している

鎌倉時代から、壬生さんのカンデンデン」と親しまれてきた壬生大念佛狂言は、重要無形民俗文化財に指定されています。年3回の公開時には、狂言堂舞台前に2つのアルミ製観覧席が設置されます。1つは、舞台前方に並べられる折りたたみ式の長椅子。アルミ合金板からスラグを打ち抜く時にできる廃材のメガネシートを有効利用したもの。もう1つは、アルミ合金パイプを支柱に大型中空形材

で組み上げたひな壇式の観覧席。軽量で高強度のため、運搬、組み立て、撤去も効率的にできます。え、収納も省スペースですみます。「アルミニウムは、加工や塗装の技術が年々向上し、発想次第ではまだまだ使用場面が広がります」と、意欲的に活用法を語る松浦貫主。建築や装飾の資材だけでなく、新たな付加価値を生むアルミニウムとの出会いが、今後も壬生寺の随所で見られることでしょう。

壬生寺へのアクセス

住所：〒604-8821 京都市中京区坊城通り仏光寺北入
交通機関：京都駅から京都市営バス26、28系統にて「壬生寺道」下車 徒歩約3分
阪急電鉄京都線「大宮」駅、または京福電鉄嵐山本線「四条大宮」駅、下車 徒歩約10分
ホームページ：http://www.mibudera.com



アルミ進化論

イージーオープンエンド編

日本のアルミ缶消費量は年間約185.6億缶(2010年)。1人あたりに換算すると年間145缶になります。プルトップ式の缶が発売されてから今年で46年。飲料缶におけるフタの開け方を簡単にした技術の進化をたどります。

※写真および商品名は、2011年6月1日現在のものです



こんな呼び方、知っていますか?

缶詰の始まり

1812 (文化9年)
イギリスで世界最初のブリキ製ハンダ缶の缶詰工場設立

1871 (明治4年)
日本で初めてブリキ製ハンダ缶のイワシ油漬け缶詰の試作成功

1939 (昭和10年)
アメリカで世界初の缶入りビール(スチール缶発売)

1955 (昭和30年)
アメリカで飲料用のアルミ製の缶胴を深絞りする製法(DI法)の試作成功

1954 (昭和29年)
日本初の缶入り飲料「明治天然オレンジジュース」東京限定発売(スチール缶、缶切り付き)

▼明治製菓(現・明治)

ジュースブーム到来

1958 (昭和33年)
日本初の缶ビール「アサヒビール」発売

(スチール缶、缶切り付き)
▼朝日麦酒(現・アサヒビール)

1965 (昭和40年)
缶入り「コカ・コーラ」日本で発売(スチール缶、缶切り付き)

1969 (昭和44年)
日本初のプルトップ式の缶ビール「缶入りサッポロプルトップ」発売

▼サッポロビール

画期的な缶切り不要のプルトップ式登場

日本初の缶入りの飲料として発売されたのは、1954年のオレンジジュースでした。当時の缶はすべてスチール製。飲むためには、付属の缶切りでフタに2か所穴を開けます。

その11年後、1965年、パシヤルオープンエンドタイプのEOE第1号として発売されたのが、プルトップ式の缶ビールです。缶本体はスチール製ですが、フタの部分はアルミ製です。フタの中心部のリベッ

タブを引き切る新方式!



缶胴部分はスチール製、フタの部分のみアルミ製。缶切りがいらなくて、開ける時の失敗も少ない画期的な発明。その後、飲料、酒類メーカー各社でプルトップ缶化が進む

世相 国鉄がみどりの窓口開設 / 名神高速道路が全線開通 / エレキブーム

1969 (昭和44年)
世界初の缶入りコーヒー「UCCコーヒーマイルク入り」発売

(スチール缶、オープンナー付き)
▼UCC上島珈琲

甘いコーヒーで大人気



缶ビール時代スタート!

開けやすさとおいしさ、アルミ缶の可能性を追求

ステイオンタブには、アルミニウム資材ならではのテクノロジーが集結しています。たとえば、タブに無理なく指がかかるようにした先端の角度。この原理を応用して、徐々に力が入るようにした左右非対称のスコア。どの指でも力を入れやすくなったパネルのくぼみの深さ。これらの緻密な構造は、やわらかく展伸性に富み、加工性に優れ、しかも軽くて強いというアルミの特性が可能にしたものです。

1990年代後半からは、口当たりの良さや飲みやすさを追求した広口型、グラスに注ぐ時のきめ細かな泡立ちに特化した小型の開け口など、消費者の嗜好やライフスタイルに合わせたEOEの技術開発が進みます。

21世紀の幕開けとともに、びんと缶のハイブリッドといわれるボトル型アルミ缶が登場。缶の形状も含めたEOEの技術の進化は、さらに続きます。

1971 (昭和46年)

日本初のオールアルミ製の缶ビール「アサヒビール」発売

▼朝日麦酒(現・アサヒビール)



画期的な軽量化に成功!

早く冷える、風味を長く保てる、缶表面に鮮やかな印刷ができる、空き缶の処理が簡単、そして軽い。その後、ソフトドリンクもアルミ缶化する

世相 マクドナルドの日本第1号店が開店 / Tシャツとジーパンスタイル定着

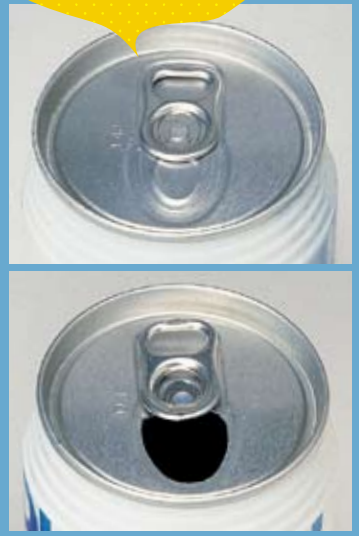
1989 (平成元年)

日本初のステイオンタブの缶入り飲料「PADI」発売

▼宝酒造



プシュッと! 開栓の大革命



ゴミ問題などへの対応として、タブが外れないステイオンタブ缶が登場。消費者の支持を受けて一気に普及

世相 幕張メッセオープン / ベルリンの壁崩壊

1971 (昭和46年)

缶入りスポーツドリンク「エナジエード」発売

(スチール缶) ▼不二家



1980 (昭和55年)

日本初の缶入り茶

「ミネラル江戸麦茶250缶」発売 (スチール缶) ▼常陸屋本舗



茶の飲料缶ブームの先駆け

1991 (平成3年)

ビール業界初のステイオンタブの缶ビール「ジース」発売

▼サントリー



リサイクルのための缶材識別表示マークが義務付けられる



1997 (平成9年)

飲み口が広口型の缶ビール「麒麟ビール工場(生)」発売

▼麒麟ビール

より飲みやすく注ぎやすい形状をという消費者の要望を反映して開発。飲料、酒類メーカー各社でも飲み口の研究を重ね、特色をいかした缶が次々に登場する

世相 京都議定書採択 / 秋田・長野新幹線開業

2000 (平成12年)

日本初のボトル型アルミ缶が登場

キャップも含めてオールアルミ製のボトル型アルミ缶の開発に成功。酒類メーカーを皮切りに、飲料メーカーへと採用が広がる

世相 ミレニアムブーム / シドニーオリンピックでメダルラッシュ



未来のエコへ! ボトル型アルミ缶

日本独自の製缶技術を駆使したボトル型アルミ缶の登場は、世界の飲料業界を驚かせたといわれています。オールアルミ製でスクリュウキャップ式。このリシール(再栓)機能が革新的発明のポイントでした。

ボトル缶への期待は、キャップも含めた高いリサイクル性と、軽量化やデザインにおける機能性にあります。形状も用途に合わせて多彩に展開。地球にやさしく、利便性を備えた新容器として注目が集まっています。

- 形状の変遷
- 2000年 ボトル型アルミ缶 (450ml、500ml)
 - 広口ボトル缶 (410g)
 - 2004年 ミニボトル缶 (100ml)
 - 2008年 ワイン用ボトル缶 (300ml)
 - 2009年 スリムボトル缶 ロングネックタイプ (350ml)

見比べてください! 違いがわかりますか?

最新 イージーオープンエンド



6月発売の開けやすく、飲みやすいかんたん缶「麒麟濃い味(糖質0)」(新ジャンル) ▶ 麒麟ビール

開けやすさ、注ぎやすさを追求した丸みをおびた注ぎ口缶「アサヒスーパードライ」他 ▶ アサヒビール

誰でも開けやすいユニバーサルデザイン缶採用「サントリー ザ・プレミアム・モルツ」 ▶ サントリー

2009年よりフタの口径を2mm縮小した缶採用「サッポロ生ビール黒ラベル」 ▶ サッポロビール

飲み口幅が1.4倍広い



2000年代

トに固着したリング型のタブを手で引っ張り、スコアから切り外して飲み口を開ける仕組みです。

加工技術と環境意識の向上でEOEの新発明

アルミ缶の加工技術や缶に飲料を詰める時の窒素充填技術の発展により、1971年には日本初のオールアルミ製の缶ビールが登場しました。

続いて、地球環境やリサイクルへの関心が高まる中、アメリカですでに普及していたステイオンタブの飲料缶が1989年、日本で採用。タブを引き上げてスコアから分離しながらパネルの内側に押し込むという、タブが外れない先進的な技術です。

1991年には再生資源利用促進法が施行され、スチール缶とアルミ缶にリサイクルマークの表示が義務化。アルミ缶のリサイクルが省エネルギーや省資源につながるというメリットから、一気にステイオンタブのアルミ缶が主流になりました。

資料提供: アルミ缶リサイクル協会、社団法人食品容器環境美化協会、日本製缶協会 写真提供: アサヒビール株式会社、麒麟ビール株式会社、サッポロビール株式会社、サントリーホールディングス株式会社、宝酒造株式会社、株式会社常陸屋本舗、株式会社不二家、株式会社明治、UCC上島珈琲株式会社 (50音順)

数字で見るアルミ

今号のテーマ: どんな節約になるの?

アルミ缶
1個
リサイクル

=

液晶テレビ
2~3時間

アルミ缶1個をリサイクルすると、
液晶テレビが2~3時間くらい見られる電気の節約になる!

回収されたアルミ缶から再生地金をつくるエネルギーは、アルミニウムの原料からまったく新しい地金をつくる時のエネルギーの3%でつくられます。つまり、97%のエネルギーの節約。97%のエネルギーを電力に換算すると、2010年では年間60.6億kWhの節電になります。もっとわかりやすくいうと、アルミ缶1個のリサイクルで、液晶テレビが2~3時間(サッカーや野球の1試合分)見られるくらいの節電になります。

出典: アルミ缶リサイクル協会

アルミサッシ
1窓

=

灯油
1,476ℓ

木製サッシをアルミサッシに替えると、
1窓で灯油1,476ℓの節約になる!

アルミサッシは、さびにくくて丈夫なため、取り替えることが少ない省資源に貢献する製品のひとつです。また、気密性に優れているため、冷暖房効果を高めて灯油や電気の節約につながるという、省エネルギーにも貢献する製品です。これを具体的に数字で示して、木製サッシと比較すると、アルミサッシの標準的な耐用年数18年間のうちに、アルミサッシ1窓あたり灯油1,476ℓが節約できると試算されていました。

出典: 『アルミと合金』 根本 茂 (あいうえお館)

アルミエージ Vol.174

発行日 平成23年7月25日
発行 一般社団法人日本アルミニウム協会
http://www.aluminum.or.jp
〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-15 (塚本素山ビル)
TEL.03-3538-0221
大阪支部
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2-1-4-301 (船場センタービル)
TEL.06-6268-0558
企画・制作 株式会社コンセント
編集・ライティング ザ・ワークス クリエイション
写真 JUN TAKAGI



公益財団法人 日本デザイン振興会



a. 上枠付踏台 lucano (ルカーノ)

2010年度中小企業庁長官賞
受賞企業: 長谷川工業株式会社

インテリアへの調和を考へて、見せることを発想の起点にしたアルミ製の踏台。安定性を高めるためのステップ面や脚幅を大型にして、機能性を向上させたことと、シャープなデザイン性が評価されて受賞。今までにない軽量化とスリム収納を可能にした技術には、アルミの特性が最大限にいかされています。

〈素材〉アルミニウム、ABS樹脂

b. デザイン グローブ Atmosphere (アトモスフィア) ニュー ワールド シリーズ

2007年度グッドデザイン賞
受賞企業: 株式会社イマオコーポレーション

北欧のモダンデザインと精巧な技術によって製作された、新感覚の地球儀。色や質感も含めて、これまでに見たことがないデザイン性があり、インテリアオブジェとしても魅力的だと評価。アルミニウムならではのメタリックな台座が、球体の美しさを引き立てています。

〈素材〉球体: ポリスチレン/塩化ビニル樹脂、
台: アルミニウム、軸: アルミニウム

c. 携行折りたたみ自転車 db-pop (ディービーポップ)

2009年度グッドデザイン賞
受賞企業: 株式会社ナガノ

利便性を追求した折りたたみ式のポータブル14in自転車。フレームやショートパーツは、オートバイフレームと同等の耐久性に優れた独自のアルミニウム材を使用。溶接部も熟練した職人の手作業です。小径ホイールでありながらフルサイズタイプの自転車に負けない乗り心地。中小企業でも大企業に負けない姿勢にエールを送りたいと高評価を得て受賞しました。

〈素材〉車体: アルミ合金

GOOD ALUMINIUM DESIGN

グッド・アルミ・デザイン

社会を豊かにする「よいデザイン」を顕彰したグッドデザイン賞。受賞対象品の中からアルミニウム製品をピックアップして、デザイン性を発揮したアルミの特性と受賞理由を紹介します。

アルミ
懐かし
モノがたり



©東北新社

想い出の弁当箱

「お母さん、百合の弁当箱、ほんまに買うてよ。いつ買うてくれるん？」

これは、香川県小豆島出身、壺井栄の小説『二十四の瞳』の一文。小学校5年生の松江は、産後の肥立ちが悪い母が臥せているため、父の大きなアルミの弁当箱を借りて学校へ行くという朝の場面です。

昭和20〜30年代、絵柄の付いたアルミの弁当箱は、子どもに憧れでした。戦後、戦闘機用のジュラルミン廃材で、ご飯蒸し器や弁当箱を生産していましたが、アルミニウム製品の需要が年間10万tを超える頃になると、人気のマンガや花柄の弁当箱が大量生産。現在でも、昭和レトログッズとして人気を集めています。

小説のエピソードの続きは、母が乳飲み子を残して亡くなり、松江は家事と子守りで学校に行けなくなります。担任の大石先生は、そんな松江を訪ねてそっと百合の花の弁当箱を手渡します。

誰もが、母の想い出とともに、弁当箱が宝物になっていくのではないのでしょうか。